

坂の右側には、きれいな家がならんでいる。反対側は崖で、フェンスが続いている。その下に、わたしたちが乗ってきた電車の線路が見える。その線路の先は、トンネルに なっていた。

あと少して坂が終わるところに、白いコンクリートの三階建ての建物があった。裏口 みたいな小さいドア。その上に「市民図書館」というプレートがかかっている。 そのときわたしは、このどつしりとした四角い建物が、なぜかとても気になった。建 物が一瞬、ゆらりとゆれて、わたしに合図をしたような気がしたのだ。

暑さのせいだと、わたしは思った。

そこを過ぎると、いよいよ坂が終わって、空がぐんと近くなった。

坂のてっぺんはT字路で、道路のむこうにもっと高い四階建ての建物があった。門に は大きく「自立支援センター・あけぼの住宅」という文字が彫られている。

その前で、お母さんは足をとめた。

わたしも、立ちどまった。

「じりつしえんせんたー、あけぼのじゅうたく」

